

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ズワイガニ

学名 *Chionoecetes opilio*

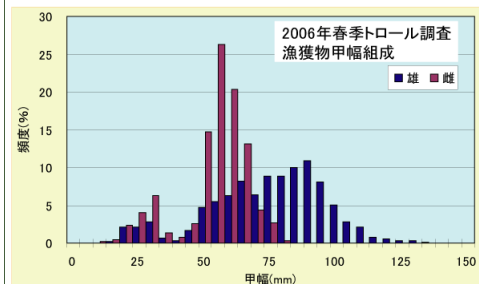
系群名 オホーツク海系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 年齢は不明、50%成熟甲幅は、雄106mm、雌63mm
産卵期・産卵場: 5～6月(初産と経産の時期は同じ)、北見大和堆の北西部の水深150～200mの海域
索餌期・索餌場: 主な分布水深は100～300m
食性: 成体は主に甲殻類や二枚貝、クモヒトデ類、この他に魚類、イカ類、ゴカイ類、巻き貝、ツノガイ類など
捕食者: マダラ、トゲカジカ

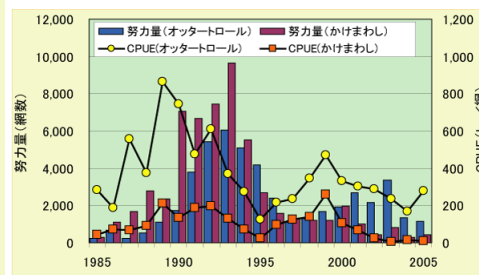
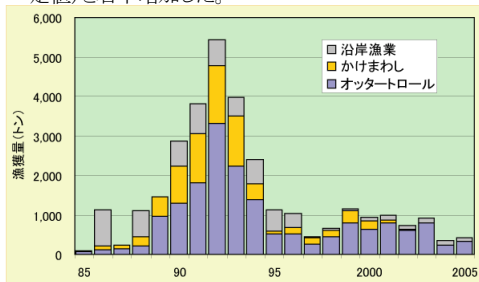


漁業の特徴

1980年代の後半までは、オホーツク海の日本水域における沖合底びき網漁業(沖底)によるズワイガニの漁獲は僅かであった。ロシア水域内での漁獲規制の強化、日本水域内でのスケトウダラ漁獲量の減少に伴い、1990年代始めに漁獲対象魚種をスケトウダラからズワイガニに変え、漁獲量は増加したが、その後漁獲量は急激に減少した。操業期間は省令によって10月16日～翌年6月15日、甲幅90mm以上の雄のみの漁獲が認められている。

漁獲の動向

日本漁船による漁獲量(1996年3月まではカニ類として集計されているため、他のカニの漁獲量を含む。集計期間は7月～翌年6月の年度)は、1985年度の85トンから1988年度の1,101トンを経て、1992年度に5,428トンに達したのち減少に転じ、1997年度には436トンとピーク時の1/10に満たない水準まで落ち込んだ。その後、漁獲量は増加傾向を示し、1999～2003年度は736～1,164トンの範囲であったが、2004年度は353トンに激減した。2005年度は429トン(暫定値)と若干増加した。

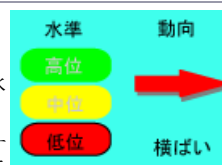


資源評価法

分布はロシア水域と連続していると考えられるが、ロシア水域に分布するズワイガニとの関係(移動、再生産)が不明であるため、日本水域での沖底の1985年以降のCPUEの動向や調査結果から、資源状態について検討を行った。

資源状態

漁獲量は沖底で漁獲されるようになった1980年代末から急激に増加し、1992年度にはピークを迎え、その後急激に減少した。ズワイガニは成熟までに長時間を要することから、この時期に漁獲サイズのズワイガニは大幅に減少したと推測される。1999～2003年度の漁獲量は900トン前後であったが、2004年度(353トン)、2005年度(429トン暫定値)と低い水準にとどまっている。また、沖底の1985年度以降のCPUEの推移および調査船調査により得られた推定現存量から、オホーツク海の日本水域に分布するズワイガニの資源水準は低位、動向は近年5年間でみて横ばいであると判断された。豊度が高い場合には、隣接する水域との資源の交流が考えられるが、隣接する東サハリン海域のTACも低位とみられることから、これらの水域との資源の交流も低い水準にあるものと判断される。



管理方策

1999年度以降減少傾向にあったトロールCPUEは、2005年度に僅かながら増加に転じた。また、2004年度に最低水準となった漁獲量は、2005年には若干増加した。一方、調査による推定現存量は2004～2005年に減少したが、2005年と2006年はほぼ同程度であった。これらのことから、資源の減少傾向は下げ止まったと推測されるが、依然慎重

重に動向を見守る必要があり、資源を回復させ持続的に漁業を継続するためには、2004年度程度に漁獲圧を抑えることとする。平成18年ABC算定のための基本規則2-2)に基づき、近年2年間の平均漁獲量に0.9を乗じることにより、ABClimitを算定した。雌ガニの漁獲は禁止されているが、北見大和堆の北西海域には雌ガニの集群する時期があるので、禁漁区の設定や漁場の輪番による利用法の導入などによって、雌ガニの保護(混獲の回避)を図ることが望ましい。

漁獲のシナリオ (管理基準)	管理の考え方	2007年漁獲量	F値	漁獲割合	評価
ABClimit (0.9Cave2-yr)	漁獲圧を減らして 資源の回復を図る	352トン	-	-	-
ABCtarget (0.8・0.9Cave2-yr)	上記の予防的措置	282トン	-	-	-

資源評価のまとめ

- CPUEの推移と資源量調査結果から、資源は低位で横ばいである
- 隣接する東サハリン海域のTACは低位で減少している
- 隣接するロシア水域との資源の交流は低い水準にあると考えられる

管理方策のまとめ

- 再生産を促し、資源を回復させるために、低い漁獲圧を維持することが必要である
- 北見大和堆の北西海域に雌ガニが集群するので、禁漁区の設定等で雌ガニの混獲回避が必要

資源変動と海洋環境との関係

ベーリング海では海洋環境や捕食者の豊度によりズワイガニの資源動向が影響を受けるとされているが、オホーツク海の環境は複雑であり、多くの環境要因との関連を解析する必要がある。

資源評価は毎年更新されます。